

# 平成31年度（令和元年度） 学校評価表

品川区立富士見台中学校

校長 山本 修史

伊藤小学校・富士見台中学校校区教育協働委員会

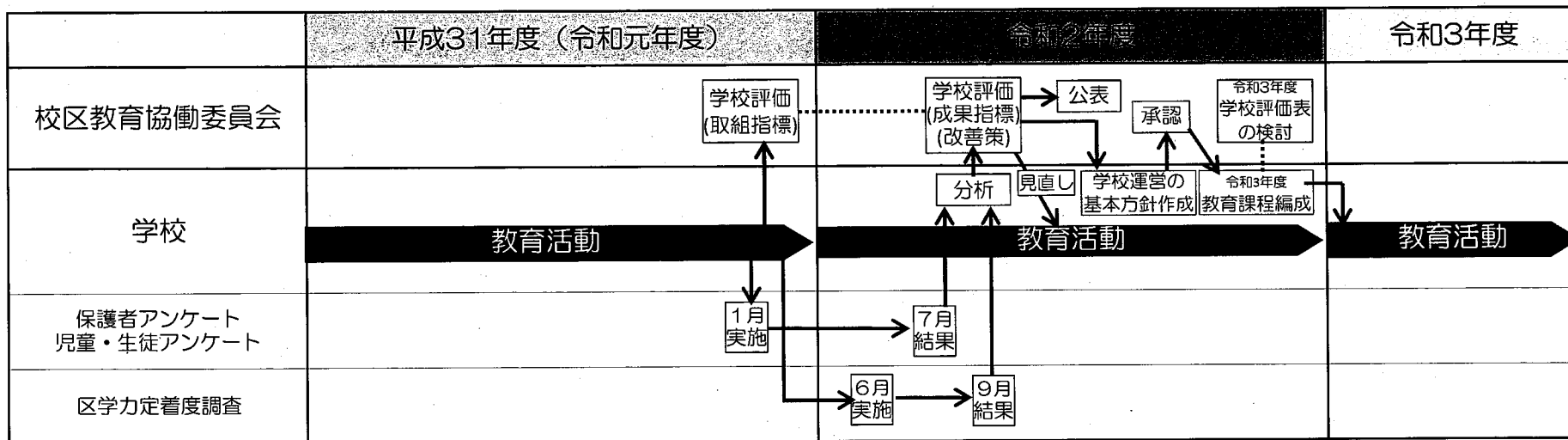
委員長 鞍馬 裕美

校区教育協働委員会は、品川区校区教育協働委員会設置要綱（改正 平成31年3月28日教育長決定要綱第8号）に基づき、次に掲げる事項について、学校評価を行っています。

- (1) 学力に関すること。
- (2) 人間性や社会性に関すること。
- (3) 体力・健康に関すること。
- (4) いじめ防止の取組に関すること。
- (5) 特色ある教育活動に関すること。

学校評価を行う際、評価項目ごとに「成果指標」と「取組指標」を設定し、取組状況と取組によって表れた成果について把握しています。学校評価により浮き彫りになった学校の課題を委員会で共有し、改善策を考えました。学校評価の結果を公表するとともに、今年度の取組の見直しや来年度の教育課程の編成に生かしていきます。

学校評価の流れ（※平成31年度（令和元年度）の学校評価が令和2年度および令和3年度の教育活動につながる部分のみ表記しています。）



評価項目1 (学力に関すること)

重点目標

○希望する進路を実現する学校・・・自ら学び、良く考え、自ら育つ生徒の育成

■重点目標

1 授業力の向上

板書・発問など授業の基礎となるものだけではなく、ICT機器を積極的に取り入れ、生徒一人一人の学習状況を的確に把握し、それを基に個に応じた指導を行うなど、生徒が「授業の内容がよくわかる」と実感できるよう、全教員の指導力の向上を図る。

2 家庭学習の徹底

家庭学習課題を工夫し、自学につなげていけるよう、保護者への啓発を行いながら、家庭学習の徹底を図る。

3 学びの場の保障

1単位時間の授業では学習内容を十分に理解できない生徒に、補習の時間を確保する(未来塾)など、学習内容の定着を徹底するための場を設定する。

評価指標	最上段:成果指標	最上段:成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降:取組指標	2段目以降:取組指標の達成状況の説明		
①	区学力定着度調査では、全問題において区の習熟基準を達成する。	区学力定着度調査では、全問題において区の習熟基準を下回った。	C	①については目標自体が適切ではなかったと考えられる。同母集団内の標準偏差比較では、5教科中4教科は上昇が見られた。目標設定を適切にすることで、取組の効果を検証しながら対応していくことが重要である。 ・学力向上に対する取り組みは、勉強会・補習教室・未来塾など、意欲的な取組が行われ、今後も継続していくことが大切である。 ・校内研修を通して、研究授業の機会をもち、教員同士が授業を見合う機会をつくる。 ・日々の積み重ねが弱い場合、小テストなどを重ねることで家庭学習を促進していく。 ・毎日の繰り返し練習が必要となるため、自主学習ノートの取組など学年単位で行う。
	① 各種学力調査・単元テスト・日々の学習状況を分析し、課題を明確にして、指導方法の改善について提案する。	各種学力調査や学習状況を分析し、明確になった課題について指導に改善を加えている。研究授業の機会を増やすなどしていきたい。	B	
	② 家庭学習を定着させるため、家庭向けに課題内容や情報提供を行う。	家庭訪問や三者面談などを通じて、家庭学習を進めることができた。情報提供はできているが、家庭での受けとめ方が十分ではない。	B	
	③ 定期考査前の補習(未来塾)や夏季休業中の質問教室・勉強会を実施する。	未来塾や夏季休業中の補習により、学習をする場として設定することができている。夏季勉強会を通じ、基礎学力の向上や進路への意識を高めた。	A	
②	全国学力・学習状況調査の生徒質問紙調査の授業の工夫に関する設問において、全国平均を上回る。	今年度の全国調査は中止となったが、問題については、配布し取り組ませることができた。	B	
	① 全教員が、各学期末に授業を振り返りを行い、授業改善案を提案する。	常に授業を振り返り、その都度授業に改善を加えている。振り返りは行っているが、授業改善を共有する場を設定できていない。	B	
	② 全教員の年2回の授業観察において、工夫された授業を行う。また、年2回の授業公開を行い、教員同士が研修し合う場を設定する。	授業観察や授業公開は年2回以上行われているので、おおむね目標が達成できていると思われる。教員同士が研修し合う場は、SDGsに関する授業のみであった。	B	

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

評価項目2 (人間性や社会性に関すること)

重点目標		○豊かな心の育成と社会性の涵養・・・自分の良さを知り、友達の良さを認め、互いに集団として高めようとする。 ■重点目標 1 信頼関係の構築 教員と生徒、生徒同士の望ましい信頼関係を育成し、認め合う学級集団を作っていく。 2 多様な活動形態 生徒一人一人が自分の良さを認めるとともに、友達の良さを認めることができるよう、体験的な学習活動やボランティア活動を取り入れ、人の関わりを広げ、深められるようにする。 3 より深い生徒理解 学級風土調査やアイチェックの実施による、検査結果を基にした客観的な学級風土理解と生徒理解を通して、より良い人間関係を築くための効果的な実践に取り組む。特別支援コーディネーターやスクールカウンセラーを最大限活用し、より深く生徒理解に努める。		
評価指標	最上段: 成果指標	最上段: 成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降: 取組指標	2段目以降: 取組指標の達成状況の説明		
①	品川区のアンケートで、「学校に行くことが楽しい。」の「そう思う。」を50%以上にする。	品川区のアンケートで、「自分の考えを適切に相手に伝えたり、相手の考えを理解しながら、人間関係を築くことができる。」を50%以上にする。	A	・継続して、生活保健部会での情報交換や特別支援教育委員会の不登校対策会議で、定期的な情報交換や対策を検討し、情報交換が途切れないようにしていく。 ・学校生活の中で「楽しい」を見出せる場面を設定していく。 ・校内研修を通して、教員同士で再確認し、人権感覚を磨いていく。 ・体験するのは難しいので、学校行事を通して学ばせていく。 ・地域行事等へ積極的に参加させ、地域貢献に関して意識させる。
	① 「富士見台中の生徒指導スタンダード」を全校で徹底した取組を行う。	教員相互の連携により取組が向上している。生徒指導の共通理解は図れているが、「徹底」という部分では課題が残る。	B	
	② スクールカウンセラーと巡回相談員の報告を生活指導部会、不登校対策委員会で活用し、対策を提案する。	毎週の会議(生活指導部会や不登校対策委員会)で情報交換や対策の提案がされている。	A	
	③ 配慮を要する生徒や、学級での気になる出来事などの情報共有を毎月行う。	生活指導部会、特別支援委員会を中心に毎月情報共有はできている。また、学年会や企画委員会等でも、その都度行うことができている。	A	
	④ 教員自らが、人権感覚を磨くことができるように、人権同和教育推進委員が研修内容を伝達する。	研修内容が参加者の中でとまっており、校内に還元できていない。研修内容を伝達し、人権感覚を磨くことは必要である。	C	
	⑤ 不登校対策委員会が、各事案における家庭との連携方法と対策を総括し、共通理解のもと実施する。	不登校対策委員会が中心となり、事案毎に個別対応している。学年毎に対応している場合がほとんどである。	B	
②	品川区アンケートの「地域や社会をよくするために何をすべきか考える」という割合を各学年50%を超える。	品川区のアンケートで、「社会の様々な人々の個性を尊重し、認め合いながら関わるができる。」を50%以上にする。	A	・地域祭礼や防災訓練等の行事に、積極的に参加することにより、多様な社会経験を重ねている。ほとんどの生徒に、奉仕精神を涵養することは大きな課題である。 ・ファイナンスパークや職場体験、ドリームジョブ等を通じ、社会参画への意識を高めた。学校地域コーディネーターの力を借りながら、貢献意識を持たせていきたい。
	①積極的に地域行事(体験的な活動やボランティア活動など)へ参加させ、社会性(地域への貢献意欲)を高める。	地域祭礼や防災訓練等の行事に、積極的に参加することにより、多様な社会経験を重ねている。ほとんどの生徒に、奉仕精神を涵養することは大きな課題である。	B	
	②市民科において、地域や社会に貢献することの意義を考える学習を単元の中に設定する。	ファイナンスパークや職場体験、ドリームジョブ等を通じ、社会参画への意識を高めた。学校地域コーディネーターの力を借りながら、貢献意識を持たせていきたい。	B	

評価項目3 (体力・健康に関すること)

重点目標		○文武両道に秀でた生徒の育成(心身の健康・体力の向上) …自分の心身の健康について正しく理解し、体力を向上させていこうと努力する。 ■重点目標 1 体力の向上 体育科教諭や養護教諭を中心に、体力向上に向けた取組を検討し、全教員で取り組むことにより、教員の指導力向上を図る。 2 健康についての授業を行う。 心身の健康にかかわる各種の授業を計画的に実施する。 3 部活動の保障 放課後や長期休業中など、生徒一人一人が、楽しみながら体を動かす習慣を定着させる。		
評価指標	最上段:成果指標	最上段:成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降:取組指標	2段目以降:取組指標の達成状況の説明		
①	○全国体力調査において全国平均を上回る。	全国調査は中止となったが、休業中の課題や授業内で取り組むことができた。	B	・加入率を高めるには入部しやすく継続できる活動計画や魅力ある活動内容を増やしていく必要がある。 ・養護教諭を中心に現在の取組を全教員が理解し、サポートしていく。 ・部活動オリエンテーションは、実際の部活動の様子などを知ることができるため、継続していく。 ・体育の授業を他教科の先生方にも参観してもらい、体育科との連携を図る。
	① 全国体力調査の結果を分析し、課題を明確にする。また、課題に対応した授業改善案を立て、実施する。	体力調査の結果分析を生かし、明確になった課題について指導に改善を加えている。体育科だけでなく、全教員が取り組めるように工夫が必要である。	B	
	② 体育の授業や運動部で行っている基礎運動を保護者に紹介する。	部活動での取組の様子を見てもらうことができた。内容説明の機会などは特別設けていない。	B	
	③ 運動部活動の加入率を高める。	生徒主体の部活動運営により、部活動への参加意欲を高めることができた。入部しただけという生徒が多く、意欲のある生徒が加入するようにしていく必要がある。	B	
①	○健康に関する意識調査において、前年度と比較し、改善する。	がん経験者の話を聞き、健康と命の大切さに気付くことができた。	A	
	① 医療機関職員の講話、校医の講話、学校薬剤師の授業を実施する。	養護教諭を中心に、保健指導として年間計画に基づき実施している。「薬育」「歯科講話」「がん教育」等積極的に行っている。	A	
	② 保健体育科教諭や養護教諭が他の教員向けに体力や健康に関する情報提供を行う。	回覧や保健室だよりにより情報提供され、共有を図っている。生徒の意識調査や実態の情報共有なども必要である。	B	

評価項目4 (いじめ防止の取組に関すること)

重点目標		○「いじめはどこにでも起こりうる」という現実を理解し、生徒理解を第一として徹底していく。 ■重点目標 1. 情報の共有 スクールカウンセラーや区のハーツなどの手を借りながら、全教職員が、学習活動、生活面、部活動や課外活動なども含めたあらゆる個人情報を集約し、常に「いじめ」や「不登校」など、心の実態を考察していく組織的取組を行う。 2. 組織的対応 ①特別支援の体制作り ②特別支援委員会(不登校対策委員会)の活性化 ③毎週定期曜日の生活指導部会の活用 ④教育相談アンケート実施 など、いじめ生徒の立場、保護者の立場から、「いじめはしない させない ゆるさない」をモットーに、安心、安全をイメージできる学校体制を作っていく。		
評価指標	最上段: 成果指標	最上段: 成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降: 取組指標	2段目以降: 取組指標の達成状況の説明		
①	品川区アンケートで、「いじめはどんな理由があっても「いけないことだと思う。」の「そう思う。」を80%以上にする。	品川区のアンケートで、「個性を尊重し、認め合いながら関わることができる。相手の考えを理解したりしながら、人間関係を築くことができる。」を80%以上にする。	A	・学校での生徒への教育だけでなく、家庭(保護者)へのはたらきかけも必要なので、家庭でのいじめや人権教育の徹底を促していく。
	① 「いじめは犯罪であり、人権侵害行為である」と位置付け、全校あげて「いじめ根絶」に継続的に取り組む。	事案に対し、学年間や生活指導部で連携して指導にあたることができている。定期的にアンケート等を行い、学校単位で取り組んでいる。	A	・特別支援教室の教員と担任との連携を図り、課題や問題点等を特別支援コーディネーターと共有し、特別支援委員会の中で、情報共有していく。場合によっては、外部機関との連携も図っていく。
	② 教育相談アンケート等を通して、いじめの早期発見に努め、発見時は組織的な対応をする。	定期的なアンケートに目を通して、必要な生徒には個別に話を聞いて解決に努められている。また、生徒観察により、小さな変化にも気付けるようにしている。	A	・学校行事ができない場合の仲間づくりについても、情報を共有していく。
	③ 未然防止のために、市民科を中心に、各学年に応じたいじめ防止の指導に取り組む。	行事を通して尊重し合う仲間づくりを意識させながら、「いじめ」防止の指導を日常的に行っている。市民科での授業内容を把握しきれてはいない	B	・「いじめ」防止を意識しながら、ワークシートの振り返りなど、継続して取り組んでいく。
	④ 校区教育協働委員会や地域健全育成協議会を通じて、地域も含めた、いじめの早期発見・早期対応に努める。	地域も含めた対応ができている。学校の授業内容や指導方法も理解していただき、生徒全体の取組ができるようにする。	B	・HPや学校だより、学年だよりなどで、地域にも協力を求めている。